

# 議会報告会・意見交換会で要望次々



やげ屋がない。食べるものもない。春日山荘付近に観光客が利用できる施設はつくれないものか。冬の通学路で、車道に出ざるをえない子どもたちがいる。少なくとも子どもらを通る歩道だけでも、しっかり除雪し、安全を確保してほしい。第6次総合計画はコストの削減、効率化の観点からコンパクトシティをめざしているが、ここには大事な第三セクターなどもある。地域をいじめないでほしい等です。

次号では柿崎会場での様子をお知らせします。

場で行いました。遠くは長岡市からも参加者があ

り、70人近い人たちが集まってくださいました。忙しい中、ご参加くださいましたみなさん、ありがとうございました。

第一部は小田順子さんによる私のエッセイ、「ガロガロガサザザ」の朗読に始まり、県議候補だった平良木哲也元市議の挨拶、日本共産党市議団の議会報告と続きました。



【キャベツ】アブラナ科の多年草。和名は甘藍、玉菜。いうまでもなく野菜のキャベツです。これまで何十年もキャベツを見てきているのですが、花は今年になって初めて見ました。考えてみれば、白菜の花もまだ見たことがありません。どんな花か、ぜひ見てみたいものです。5月14日、吉川区竹直にて撮影。

## 秋葉山提灯行列に今年も

4月29日、大島区の春の風物詩、秋葉山提灯行列に参加してきました。今回で4回目から回目です。

提灯行列では、私の前に大島小学校の3年生が2人、元気に参加していて、登るときは、「17×7はいくつでしょう」と算数クイズをして遊びました。おかげでこの子どもたちからは「いまどき先生」というあだ名をつけられてしまいました。私の後ろにいたYモーターの女性もその様子を聴いておられたようで、「橋爪さんでしたか」と声をかけていただきました。今回も大平の夜景は見事でしたね。

## 今年も賑やかに政治を語り、山菜料理楽しむ

「政治を語り、山菜料理を楽しむ」を4月28日、吉川多目的集会

場で行いました。遠くは長岡市からも参加者があ

選挙戦を振り返って、「両親の介護のことが話題になった」などのエピソードを語ってくれました。

上越市議会は12日から16日まで、市民プラザや「は」とびあ中郷」など4会場で議会報告会・意見交換会を開催しました。

議会議報では、第6次行政改革推進計画、新水族館のイルカショー、変わり始めた上越市の平和予算などについて3人の市議がマイクを持ちました。また4月に柏崎市議になったばかりの樋口良子さんも参加し、

第二部は交流会。いつも手品をしてくださった男性が、戦後初めて歌ったという歌を披露してくださいました。「ふるさと」を歌い、踊り出す人もありました。楽しいイベントで、また元気をもらいました。

会では、正副議長や各常任委員会からの報告の後、参加された市民の皆さんから質問や提案、注文などが相次ぎました。

市民プラザと安塚コミュニティプラザでの主なものを紹介しますと、「春日山は上越の宝。しかし、おみ

「はしづめ法一の活動レポート」



**No.1909 2019.5.19**  
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
 Tel 025-548-3628  
 通じないときは 090-5392-1961  
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

# はしづめ法一の活動レポート

# 春よ来い

## 第五五七回

### 弟の帰省

今年の正月、愛知県在住で私のすぐ下の弟は、母に顔を見せるように催促され、「桜が咲く頃には帰るよ」と約束していました。

母はその言葉を信じ、「桜が咲けば、ツトムが帰ってくる」と、桜の咲くときをずっと待ち続けていました。母にとって、桜というのはわが家の庭にある桜の木のことです。父が植えたその桜はこれまで、濃いピンク色の花を咲かせ続けてきました。

ところが、この桜の木は今年、四月下旬になっても花を咲かせませんでした。「まだ桜が咲かない」という母の言葉を聞いたとき、「認知症がひどくなったかな」と思ったのですが、桜の木のそばに行つてよく見たら、驚きました。まだ若い木なのに枯れていたのです。これには困りました。

桜の木が枯れたことを母に知られてはまずいと思い、愛知の弟に電話して、早く帰省するように促しました。忙しいゴールデンウィークが終わって最初の日曜日の夕方、弟はようやく帰ってきました。

弟が帰省したのは数年ぶりです。この日のために、母は家族の者と協力して久しぶりに赤飯を蒸かしました。大湊区に住むもう一人の弟もウドやワラビなどの山菜を採りに行き、天ぷらなどにしてこの日の夕食時に持つてきてくれました。

コタツのテーブルの上には、ウドやフキノトウの天ぷら、ワラビやウドの煮物などが並びました。そして私が用意しておいたオードブルや朝鮮漬けなどの漬物もテーブルに上げました。

母が指導して作った赤飯は、これまで母が一人で作ったときのものとまったく同じ味で、「やっぱり、この赤飯は違うね。うんまいわ」などの声が上がりました。家の方によると、もち米をといでから水に浸す

時間の長さ、蒸かしに入る前にちよっぴり入れる塩加減が赤飯の味を左右するようです。耳が遠くなった母は、赤飯を美味しく食べている私たちの姿を確認できてニコニコ顔でした。

刺身やフライなどオードブルのものも、大湊の弟が揚げたという山菜の天ぷらもおいしい味で、次々となくなっていました。

この日、キョウダイの中で大きな話題となったことのひとつはキュウリの朝鮮漬けです。というのも、この漬物は私たちが子どもだった頃、わが家の常備食というか必ず出てきたおかずだったからです。

この朝鮮漬けは色も味も歯ごたえも昔と変わりませんでした。弟たちは、「懐かしいなあ。確か、親父が源農協からだろっけ」と、桶入りのものを買って来ていたよね。「これがあれば、ご飯、いくらでも食べられたこと」などと言って喜んでいました。

愛知から帰省した弟は二泊三日、わが家で母と過ごし、戻っていききました。この間、尾神にあるわが家の墓参りに行ったほか、母と一緒に柏崎の日本海フィッシャーマンズクラブ（旧米山レストハウス）で刺身などの料理を食べました。

母は弟が愛知へ帰って行った日の午後、「みんなは大橋さんとこで、うんめもん、いっぱいっつおしてくんと」「鯛の刺身に、赤い刺身に、ばちゃ、ほら食いな、ほら食いな、ほら食いな、ほら食いな」とうれしそうに報告してくれました。

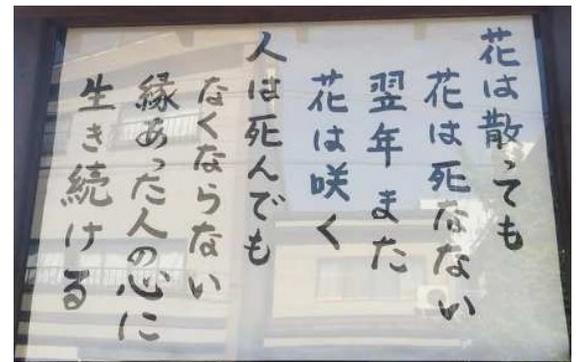
愛知の弟の帰省は母を元気づけるものとなりました。「来年もまた来るよ」と言われたのでしよう、母の顔はいつもより色つやが良くなったように見えました。でも、弟によると、帰りのとき、母は南側の廊下に出て見送ったものの、泣いていて、しばらく車をかせなかつたそうです。

## 花は散っても 花は死なない……

直江津の三八市の通りにある真宗大谷派聴信寺の住職が6日の朝、急死されました。まだ64歳でした。私は11日に吉川区内のお寺の方からお聞きし驚いたのですが、12日の午後、このレポートで何回もとりあげてきた聴信寺の掲示板を見て、またびっくりしました。

掲示板には「花は散っても花は死なない 翌年 また 花は咲く 人は死んでも なくならない 縁あった人の心に 生き続ける」と書いてあったのです。

字体は明らかに住職が書かれた



もの。聴信寺の坊守さんに聞くと、なんということでしょう、この掲示板の言葉は、住職が亡くなる前々日か前日に書かれたというのです。胸が熱くなりました。

心から冥福をお祈りします。

## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月7日(火)	5月14日(水)
上越南消防署	0.047	0.043
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.047	0.040
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.050	0.043
高士分遣所	0.047	0.047
名立分遣所	0.047	0.050

### 樋口さんが挨拶

柏崎市議に当選した樋口良子さんが15日、新潟市の集会で笑顔いっぱいの挨拶をしました。お隣の市ですので、今後、力を合わせて頑張ります。

